

令和2年度の学校教育目標に対する学校評価を以下のように進めた。 ①保護者アンケート（12月に実施） ③児童アンケート（12月に実施）

<b>学校教育目標</b>	◎かしこく あたたかく つよく	進んで取り組む子 仲良く助け合う子 健康でたくましい子	深く考え豊かに表現する子 全ての命を大切に 最後までやりぬく子	<b>重点目標</b> つよく 健康でたくましい子 最後までやりぬく子
---------------	-----------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価	
					中間評価	最終評価				
かしこく	よさ、可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校	①基礎的・基本的な確かな学力の定着	ユニバーサルデザイン	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童の評価は◎である。保護者の評価が○である。	具体的な成果を積極的に伝えていく。	<b>項目ごとのご意見ではなく、総括的なご意見をいただいた。</b> ○学校や学級は落ち着いている。 ○ミニ運動会が開催できたことがよかった。夏休みが短かったが2学期ゆっくとやっていたので良かった。 ○Gsuiteは入りにくい。他の簡単な方法でもよいのではないか。 ○学校に来ることが少なく、様子が分かりにくかった。少しでも学校に来る機会がほしい。 ○登校時は保護者の同行者が多くなった。心配している方も多いようだ。子供にも不安があるようだ。高学年は個別登校で気が楽になったようだ。 ○子供たちや地域の方があいさつをしてくださる。まちが動いていると感じる。 ○見守りの方のあいさつで保護者は喜んでいる。 ○子供の触れ合う機会が少ない中、いじめが3件あったのは意外だった。どういじめがあったのか。 ○再開当時はピリピリとした雰囲気があった。秋ぐらいから落ち着いてきたような気がする。 ○様々な情報をオープンにしているのが良い。情報が少ないと保護者は不安になる。 ○学校に行く機会が少ない中、学校アンケートは保護者と学校がつながる貴重な機会である。もっと積極的に活用できる工夫があるとよい。 ○学校に関する情報を積極的に発信することで保護者は安心する。高校では、短時間ではあったが授業参観があった。 ○実施が危ぶまれた移動教室の情報が少なく、保護者が心配をしていたようだ。 ○育成会の行事ができなかった。今後は、オンラインでの実施も考えていきたい。 ○紙飛行機大会や夢ポストなど子供たちの思いや意見がたくさん書いてありました。子供たちの思いや意見を出来るだけかなえてあげたい。 ○用務主事や警備員、その他学校に勤務する職員の方が子供たちを見守ってくれている。大変ありがたい。	
			問題解決的な学習の重視	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	▼	児童の評価は○である。保護者の評価が▼である。	学校の取組を更にわかりやすく伝える必要がある。		
			基礎学力の定着	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童及び保護者の評価は○である。	今後も継続して更なる充実をめざす。		
			二小スタンダードに基づく学習習慣の確立	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	◎	児童及び保護者の評価は◎である。	新しい生活様式を含めて定着している。		
		②夢の素材を育むキャリア教育	二松タイムを中心としたキャリア教育の充実	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	▼	児童の評価は○である。保護者の評価は●である。	コロナ禍であっても保護者に分かりやすく伝えていく。		
			自己肯定感を育てる指導の充実	児童及び保護者対象アンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	▼	児童の評価は◎である。保護者の評価が▼である。	保護者の理解を得るために、学校の取組を分かりやすく伝える。		
			①心を育てる	体罰の根絶	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	◎	体罰調査では該当はなく、保護者の評価も◎であった。		サービスの徹底と丁寧な聞き取りを継続していく。
				いじめの根絶	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童及び保護者の評価は○である。		いじめの早期発見、丁寧な未然防止に努める。
あたたかく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	②合理的な配慮に基づくインクルーシブ教育の推進	二小スタンダードに基づく生活指導の徹底	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	◎	児童及び保護者の評価は◎である。	学習のスタンダードも作成する。		
			豊かな環境を活用した心を育む教育活動の推進	保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	▼	児童の評価は○である。保護者の評価は▼である。	更に充実を図り、今後とも活用、維持に努める。		
			校内体制の充実	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童の評価は◎であるが保護者からの評価は○であった。	保護者の理解が得られるようになった。継続したい。		
			合理的な配慮に基づく教育を推進	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童の評価は◎であるが保護者からの評価は○であった。	保護者の理解が得られるようになった。継続したい。		
つよく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	①体力づくり健康づくり	体育・健康に関する指導の充実	保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	保護者の評価は○である。	更に充実を図り、今後とも活用、維持に努める。		
			保護者、地域と連携した安全教育の推進	保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	●	保護者の評価は●である。	更に充実を図り、今後とも活用、維持に努める。		
			保護者と連携した情報モラル教育	保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上		○	児童及び保護者の評価は○である。	保護者への理解が図られ、家庭の協力が得られるようになった。		
			学校便りやホームページを活用した情報発信	保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上		○	保護者の評価は○である。	更に充実を図り、今後とも活用、維持に努める。		

到達の指標 A 児童90%・保護者85%以上◎ B 80%以上○ C 80%未満▼

協議

秋谷：アンケート結果から「目当てをもって」子どもは◎、保護者●となっている。めあてをたてる時間をとっているのか、もったことをお家と共有しているのか。保護者が知らないのだと思う。残念と思う。

因藤：どのクラスでも毎時間目当てに沿った振り返りをしている。児童は当たり前になっている。めあてのとらえ方の違いもあるのではないかな。

関戸：「学校生活たのしい」「いいところがある」の項目では、学年ごとに違いがあるのでは。自己肯定感が低い児童、低学年では自己肯定感自体の認識が難しいのでは。

菊地：アンケート項目は学校単位で自由に作っているのか。項目を見るとこんなにいい子でいなければいけないのかと思ってしまう。もっと絞ってもいいのではないかなと思う。あいさつ、などは家庭にゆだねる視点を持ってもいいのでは。学期ごとに項目を絞るなど。やっていることはいいこととわかるが全人的教育を意識しすぎている実感がある。

三上：同感だ。20年位前から学校に求められる評価項目が多くなってきている。大変な時代と思う。

菊地：○が80%であれば一般的にはいい成果ととらえるものだ。

秋谷：自分は役に立っているか、といった認識、授業では「あなたのいいところ探し」「ふわふわ言葉」など取り組まれている。自然とできている。そういったことが知られていないのは残念。心の問題の事件が多いのと、それを言葉にできない児童がいるのが課題。人間力を重要視して育てられているのを感じる。人間としての基本を学ぶことを大切にしておられる。

市野：「全くそう思わない」等の回答は同じ児童なのか、別項目では肯定的だったりするのか。前者であればしっかりその児童に向き合ってほしい。検温、ウィルス等の認識が高いのが児童のすばらしさを感じる。

菊地：社会体制のない新社会人が増えている実感がある。小学校に求められる姿はどう考えるか。

福島：保育園含め、ある程度まで手助けをしてあげたい。

三上：記名式ですか。

福澤：インターネットの回答にしては回答率が低い。もっと高いといい。記名式を気にする方もいるのでは。

三上：児童アンケートにも記述式の項目はあるのか。

秋谷：1年生に上がると友達を呼ぶときに苗字でよぶ。そこを緊張する。保育園までは本名で呼ばれるところからの変化を感じている。呼び名に関する決まりはありますか。

因藤：決まりはないが、人権的な面からの指導をしている。

市野：君、さん、で呼ぶと落ち着いた雰囲気がつくられると聞いたことがある。

菊地：名字で呼ぶのは日本的。公式な場では名字

関戸：6年生の不登校の児童に対してどのような対策をしているのか。

副校長：当該児童、保護者、教育委員会ふくめ面談をすすめ登校に向けた取り組みを進めている。

三上：未解決の5件について解決に向けた障害はあるのか。

吉川：①アンケート内容が多くて大変だなという意見は同感。全部◎しようとは思われないで参考にしながらという視点でいいと思う。

②心の教育という視点では、コロナ禍で勉強を遅らせないようにしなければいけない、校長先生の「無理をしない」というわれるところは大切と思う。ゆとりをもちながら児童と向き合う心を大事にすることを。心を大事にするところをさらに力を入れてほしい。親の世代が自己肯定感を育てていない結果もあると思う。その中で子供が育ってしまう。もっと「いいところはここだよ」と語ってあげたい。

③呼び捨てだめだったのが中学校にいくと呼び捨てになるのがカルチャーショックだった。ハザマのギャップ。

福島：幼少の連携はよりもたれるようになった。小学校は楽しいよ、と送り出してあげたい。